

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2018 年
3 月 23 日(金)
第 150 号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

保育を楽しもう会@Tokyo 4 年目終わる 今年は「関係」をテーマに

今年度の保育を楽しもう会@Tokyo。若手保育士を中心に、今年は、「関係」をテーマに、全 4 回の学習会を開催しました。

第 1 回 「気になる子どもとの関係」 第 2 回 「保護者との関係」 第 3 回 「目立たない子どもとの関係」 第 4 回 「職場の人たちとの関係」をテーマに、毎回「ワールド・カフェ」方式で、テーマに沿って話し合いました。この方式は、各グループ 5 人程度の小グループで行うのですが、ラウンド 1~3 まであり、各ラウンド約 20 分話し合います。(話し合いをしながら、模造紙にカラーペンで参加者の意見を書き込んでいきます。)メンバーの組み合わせを変えながら話し合いを続けていくことによって、たくさんの参加者と話し合っているような効果が得られる手法です。

第 3 回 「目立たない子どもとの関係」(2 月 13 日開催)では

「目立たない子との関係を築いていくにはどうする？」というテーマで話し合いました。「そもそも目立たない子っているのか?」「保育士目線では目立たなくても、子ども目線だとまた違うのかも」「その子の得意なところやいいところを見つけていきたいね」などと一つのテーマでもさまざまな視点、考え方があり、話が深まりました。各グループ、和やかでアットホームな雰囲気での話し合いが進みました。

まとめでは、「目立ちたくても目立てない子」なのか、「目立ちたくない子」なのか見極めることが大切で、目立たない子の問題点は「保育士にとって見えにくい」ことなので、「保育士がよく見ようとする」ことで、その子を理解できるようになってくる。」「すべての子どもたちが安心して楽しく過ごせるように(安楽)」という言葉がでると、参加者のうなずく姿が多く見られました。

そして、子どもの安楽を守るための話として、各自治体が設定している国基準を上回る独自基準野切り崩しが狙われていることや、幼児教育無償化の財源について、公立施設は全額自治体負担とすることが画策されているという話がありました。目の前にいる子ども達はもちろんのこと、すべての子どもの安楽を守っていききたいと改めて感じました。



運営委員になりませんか?

「保育」の話がしたい。

他の人はどうしているの?

私の保育実践を聞いて などなど

参加者募集中

今度の運営委員会は、

4 月 10 日(火) 東京自治労連会議室

参加してみませんか?!

どなたでも大歓迎で

第4回 「保護者との関係」(3月13日開催)では

今回の実践報告では、公立園から民間委託されるさなかでの関係性。当該園とならなければ実感できない感覚に、驚くこともたくさんありました。自分たちが育ててきた子どもたちへの熱い思い。これから子どもたちはどう成長していくのかという不安。そして、そこへ否応無く巻き込まれてしまっている子どもたちの声。やはり『公的保育を守っていきたい』という思いにもつながったのではないのでしょうか。

「職員同士の関係で意識していることは？」と書いてスタート。若手保育士を中心に、クラス内、クラス外、他職種と色々な人が働く保育職場において大切にしていることを出し合いました。その中には共感出来るものがたくさんあり、「そういう時はこうした！」という経験談や「わかるわかる…」と具体的な解決策が見出せずに悩む姿も。何が大切なことなんだろうと考えていると意外と『ありがとうとごめんなさい』というシンプルな回答になるグループもありました。単純だけれど、様々な立場やプライドが邪魔をして…意外と難しく捉えてしまっているのかもしれないですね！

普段「子どもとの関係作り」に主眼を置いている保育士ですが、改めて「職員との関係性」という話し合いの内容から、自分と他職員との距離感を顧みることができました。そして、明日からの関係性において少しでも変化を生むことができるかもというポジティブな思いも語られました。

まとめでは、保育は第1に『子どものため』『保護者のため』と職員同士の関係はあくまでもその次というのが前提だが、その関係性こそがよりよい保育を作りだしていくキッカケになること、保育を楽しむために必要な基盤となっていくことなどが語られ、子ども理解につながっていくことになります。

<参加者の声>

☆20代保育士1年目

職場以外の人と話せる機会になり良かった。
様々な人の話を聞くことができ参考になった。
また機会があれば参加したい。

☆20代保育士2年目

話しているうちに前向きな気持ちになれた。いろいろな人の考えを知ることが出来て勉強になった。

☆20代保育士5年目

4回続けて参加させていただきました。毎回テーマに合わせて様々な情報交換ができ、自分と違う考えも聞くことができ、大変勉強になりました。同年齢の方のいろいろな考えが聞けたり、悩みが共有できたり、フランクに話せて楽しかったです。

自治体に働く 青年保育士 StudyGroup in 関東甲越ブロックを開催！

60人をこえる参加！！

3月11日（日）新宿農協会館に、東京・埼玉・神奈川・茨城の青年保育士が集合。初めての学習会を開催しました。会は、午前中、発達心理学者の川田学先生の

『2050年の保育で何をしようか？

～子育ての“手”をめぐる発達心理学序説～

講演を受け、人間の発達とこれからの保育について考え合い、午後は、自治労連共済の説明と保育情勢を学び、さらにそれぞれの活動を報告し、グループ交流と盛りだくさんの1日を過ごしました。

